

より密接な地域医療連携をめざして

地域医療連携室

Office of Community

だより

2014 VOL. 8

新病棟（E病棟）が一部オープン！

平成25年11月
第1期完成

～放射線治療、腫瘍センターのがん治療部門と臨床検査室が診療開始～

放射線治療・核医学科 教室紹介

～最先端のがん診療をめざして～

教授 長谷川 正俊
助教 真貝 隆之

がん診療では日頃からいろいろとご協力いただき誠にありがとうございます。奈良県立医科大学附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として、県内のがん診療の中核的な役割を果たしながら、病院間（病病連携）、病院と診療所間（病診連携）の協力を積極的にすすめていますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

本日は、放射線治療と核医学検査を担当している放射線治療・核医学科を紹介させていただきます。

がんの診療においても、すべての県民が平等に治療を受けられるという「均てん化」が必要ですが、その一方で高度な技術を要する治療では「集約化」も重要です。従来からの方法で適切な治療が可能な患者さんには近隣の病院での診療が望まれますが、最新の画像誘導放射線治療を併用した強度変調放射線治療、定位放射線治療、小線源治療等が必要な場合には、ご紹介いただいで当院で治療させていただく機会が多くなっています。

当院では、最先端の画像誘導放射線治療、高精度放射線治療（強度変調放射線治療、定位放射線照射、他）が可能な外部放射線治療用リニアック3台（TrueBeam STx、Trilogy、Novalis：いずれも画像誘導治療システム ExacTrac が付属）、高線量率密封小線源治療装置1式、前立腺癌ヨードシード永久挿入治療設備1式が稼働中です。放射線治療・核医学科の放射線治療部門と中央放射線部の放射線治療室が協力して、毎日、悪性腫瘍の患者さんを多数治療しています。

一方、放射線治療・核医学科の核医学部門、アイソトープ検査室には、3台の撮影装置（ガンマカメラ）があり、放射性同位元素を用いた種々の核医学検査（脳血流シンチ、心筋シンチ、骨シンチ等）を行っています。近日中には、がんの診断にも有用なPET/CTを導入予定です。また、病変への特異的な集積を生かした内用療法（アイソトープ治療）も放射線治療部門や他診療科と連携しながら実施しています。骨転移に対するストロンチウム89治療（メタストロン）、悪性リンパ腫に対するイットリウム90標識抗体治療（ゼヴァリン）、およびバセドウ病/甲状腺癌に対するヨード131治療を現在行っています。

今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



腫瘍センター紹介

～最高のがん医療チーム(チーム・オンコロジー)を目指して～

腫瘍センター長 神野 正敏

腫瘍センターは、附属病院中央部門として「外来化学療法室」を管理・運営するとともに、がん化学療法レジメン委員会で承認申請されるレジメンの受付、承認後登録・管理を行い、無菌調剤(ミキシング)室では入院患者投与分も含めた抗がん剤の処方監査、無菌調剤を行っています。

当センターの歴史は、平成17年旧救急棟1階ICU跡地に病床10床の外来化学療法室が開設されたことに始まります。当時は、通院でがん化学療法を施行する「場」を提供することが主な目的であり、専任看護師2名、薬剤師3名が配置されましたが、専任医師は不在でした。3年後の平成20年4月に都道府県がん診療連携拠点病院にふさわしいがん化学療法部門の充実を目指し、病院中央部門としての「腫瘍センター」へと発展しました。外来化学療法室で化学療法を受ける患者さんは年々増加し、開設初年のはのべ1,000件足らずであった利用数は、24年には7,000件近くまでに増加しています。患者数の急増に伴い、病床予約が取りづらく、利用診療科には不自由を強いてきましたが、平成25年11月第1期完成と同時に、新築のE病棟に移転拡張させていただきました。移転後は、広いオープンフロアにリクライニングチェア18、ベッド8、計26床に増床された専用治療病床に加え、独立した小児用治療ブースを備えています。各病床には、EIZOのパーソナルTVモニターを備え、天井には11基のBOSEスピーカーを配してオーディオシステムから耳に心地よいBGMを流しています。また、男女別および多目的トイレを完備し、ラウンジをイメージした家族待機場所も確保するなどアメニティーに配慮したゆったりとした造りとなっています。外来診療部門には明るく広い診察ブース2か所と、落ち着いて患者さんとお話ができる面談室があり、近い将来「採血→診察→化学療法オーダー→治療」まですべて自己完結できる「腫瘍内科」として運用できるよう配慮したレイアウトに致しました。診療体制は、医師4名(がん薬物療法専門医・指導医を含む専任教員2名と病院助教2名)、がん化学療法看護認定看護師を含む専任看護師10名で化学療法の管理や有害事象の対応、患者ケアならびに指導を行い、がん薬物療法認定薬剤師を含む専任薬剤師8名で、入院も含めた抗がん剤の無菌調剤、薬剤指導を行っており、外来化学療法加算1の施設基準を満たしています。

薬物によるがん治療である「化学療法」の分野は、新規抗がん剤やがん細胞を狙い撃ちする分子標的治療剤などの登場により治療成績が向上し、また治療継続の大きな障害となっていた嘔吐や好中球減少などの重い副作用に対しても有効な支持療法が開発され、著しく進歩しています。患者さんが化学療法の恩恵を最大に享受するためには、科学的根拠(EBM)に基づいた「標準療法レジメン」を、十分な安全性を担保して実施する必要があります。さまざまな薬剤を複雑な投与スケジュールで使いこなすには、より高い専門性が求められ、がん薬物療法および患者ケアに精通した腫瘍内科医、看護師、薬剤師さらにソーシャルワーカー(MSW)などで構成される多職種がん医療チーム(チーム・オンコロジー)が機能していくことが必要です。わたくしたちは、充実したアメニティーの中で最高のチーム・オンコロジーによる質の高いがん医療を提供することを目標に、当センターが患者さんにとって真の「癒しの空間」となることを目指して日々努力してまいりますので、どうかよろしく願いいたします。

薬物によるがん治療である「化学療法」の分野は、新規抗がん剤やがん細胞を狙い撃ちする分子標的治療剤などの登場により治療成績が向上し、また治療継続の大きな障害となっていた嘔吐や好中球減少などの重い副作用に対しても有効な支持療法が開発され、著しく進歩しています。患者さんが化学療法の恩恵を最大に享受するためには、科学的根拠(EBM)に基づいた「標準療法レジメン」を、十分な安全性を担保して実施する必要があります。さまざまな薬剤を複雑な投与スケジュールで使いこなすには、より高い専門性が求められ、がん薬物療法および患者ケアに精通した腫瘍内科医、看護師、薬剤師さらにソーシャルワーカー(MSW)などで構成される多職種がん医療チーム(チーム・オンコロジー)が機能していくことが必要です。わたくしたちは、充実したアメニティーの中で最高のチーム・オンコロジーによる質の高いがん医療を提供することを目標に、当センターが患者さんにとって真の「癒しの空間」となることを目指して日々努力してまいりますので、どうかよろしく願いいたします。



前方連携
初診予約

予約専用 FAX を新設しました!

予約業務のシステム化に向けて、平成26年4月1日より初診予約専用FAXを新たに設置しました。初診予約のご依頼の際には専用FAX番号への送信にご協力をお願いいたします

初診予約専用FAX番号

予約受付時間平日8:30~16:00

0744-23-9901

FAXの受信は
24時間対応
しております

初診予約以外は従来の FAX 番号へ

0744-23-9923



初診予約システムは患者サービスの向上を目的としております

初診紹介患者予約診療に関するアンケートを実施しました

奈良医大連携登録医を対象に初診予約システムの満足度等についてアンケートを実施しました。約150医療機関から予約に関するご意見をはじめ、地域医療連携室へのご要望を多数いただきました。

ご意見・ご質問	回 答
緊急時の対応をしてほしい	当日のご予約はお取りできません。当日の緊急受診については診療科へご相談ください。
再診予約は取ってもらえるか	地域医療連携室では初診予約のみお取りさせていただいております。再診につきましては診療科で伺っております。
夜診帯も予約を受け付けてほしい	16:00以降は診療科との調整が困難なため、現状としております。インターネット予約(24時間対応)をご利用いただきますとお手元で即時に予約票を印刷いただけます。ご利用には事前登録が必要となっておりますので、詳しくは地域医療連携室までお問い合わせください。
依頼手続きが面倒 様式が使いにくい	診察中の手続きについては大変ご面倒をおかけしております。この度、登録票の様式を変更しており、記入方法につきましては地域医療連携室のHPに掲載しておりますのであわせてご利用ください。

ご理解ご協力よろしくお願いいたします



後方連携
療養連携

平成25年度 退院調整実績 (平成25年4月~平成26年3月)

退院調整看護師2名、 医療ソーシャルワーカー7名で 退院調整業務を行っております!



他院への転院の調整に関しては医療ソーシャルワーカーを中心に、患者さん・ご家族と面接し情報提供を行ったり希望をききながら、連携先医療機関と連絡調整しています。

自宅退院される患者さんへの在宅療養調整では、退院調整看護師と医療ソーシャルワーカーで医療処置や介護が必要な患者さんへの支援を行っております。人工呼吸器装着や経管栄養など医療依存度の高い小児患者さんや、がん末期の患者さんなどへの支援をしています。患者さん・ご家族が安心して在宅療養ができるよう地域の医療機関や訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などと連携を取り、患者さんに関わる院内外スタッフが集まる退院前カンファレンスを適宜開催しております。

今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



転院調整
579件

在宅療養調整
153件

地域連携パス
129件

退院前カンファレンス 61件

(全調整件数: 861件)

登録医さんへ

紹介患者さんのカルテ
閲覧・病室訪問について

本院では、連携登録医からの紹介患者さんについて、診療に係る情報を共有し一貫性のある医療を提供するため、連携登録医による入院患者さんのカルテ閲覧・病室訪問を可能としています。

申 込 先	地域医療連携室 電話 0744-29-8022 (直通)
申込受付時間	平日(月曜日～金曜日) 8:30～17:00※祝日・休日・年末年始を除く。
申 込 方 法	1 来院(閲覧・訪問)希望日の 2日前までに 地域医療連携室までお電話ください。 2 本院の主治医と調整を行った上で来院日時を確定し、ご連絡します。 3 閲覧・訪問可能時間は、 平日13:00～17:00まで となります。

※連携登録医の申し込み手続きは、当院ホームページに掲載しています。

在宅医療充実に向けた 地域医療連携機能のあり方検討会を実施しました



脳神経センター大田記念病院
田原久美子地域医療連携室室長

少子高齢化や医療の高度化の影響を受け、医療機関では「退院調整」の必要性が高まり、地域との連携を担う部署が退院、在宅への療養環境の調整を行うことが多くなっています。

当室でも、退院困難な患者さんに対し、主治医・看護師からの依頼を受け、退院後の療養環境の調整を行っています。回復期リハビリテーション病棟や医療療養病棟などへの転院に加え、医療的ケアを複数有した自宅退院への調整が年々著しく増加しております。在宅と医療機関との違いは、サービスを患者個々の状況に合わせて組み合わせ療養環境を整えていきます。おのずと様々な機関の多職種での連携が必要となるのが特徴です。

しかし、地域医療連携部署の実務者の情報交換や課題の共有の機会がなく、在宅の保健・医療・福祉との連携を進める上での課題が不明確な状況でした。そこで、課題を明らかにし効果的な多職種連携のあり方を探りたいと考え、奈良県の平成25年度在宅医療推進事業(多職種連携研修)に「在宅医療充実に向けた地域医療連携機能のあり方検討」をテーマに応募し、採択されました。

平成26年1月23日、29日に県内の医療機関の地域連携の実務担当者を対象に、南北2か所にて第1回交流会を開催し、39医療機関、74名の参加をいただき、情報交換や課題の抽出を行いました。平成26年3月には第1回抽出課題の報告と、広島県から脳神経センター大田記念病院の田原久美子地域医療連携室室長を講師にお招きし、「患者さんの「帰りたい」を支える～外来・病棟と連携室&地域の連携～」の講演を賜り、33医療機関60名の方にご参加いただきました。また県内の地域医療連携実務担当者間の連携や交流の在り方について意見交換を行い、医療機関連携実務者の交流の機会について継続を支持する意見が多く寄せられました。

